

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2022年2月15日 15時13分～15時35分



子どもたちの多様な学び場、多様な進路について考える

— 鈴木先生、こんにちは。よろしくお願いします。

— よろしくお願ひします。

— 今日は、多様な進路、学び方について伺っていきたく思います。ちょうど今は、進路を決める時期だったり、春からどうするかを決める時期ですね。

— そうですね、まだこの寒い時期にね、春からの新しい生活を決めないといけないですね。

— 先生は2019年から三木町にフリースペースを開設して、いろんな子どもたちのサポートもされているということもあって、非常に一生懸命されているところですね。

— そうですね、もう2019年からですので、2年くらいですね。週に1日だったんですけど、今月からは週に2日、フリースペースを開催しています。

— 中学を卒業した後の進路ということ、全日制の高校進学がすぐ頭に浮かぶと思うのですが、子ども一人一人にあった学び方、進路というのはそれだけではなかったりしませんか？

— はい、現在の高校進学率はほぼ100%で、全日制に行く子は90%を超えています。最近、不登校が増えているのも反映されて、通信制やサポート校、不登校経験を配慮した全日制なども増えてきました。高校生も香川県では、年間200人くらいが退学、転校しています。その行き先が通信制なんかが多いですね。または、高卒認定試験を受けて、高校を卒業せずに大学や専門学校へ進学する人もいます。

— 意外にいろんな選択肢があるということを知る機会がないですね。自分の子どもに合わせた考え方はすごく大事だと思うのですが、そういう状況になって初めて探しますよね。通信制高校、サポート校、スクーリングなど、詳しく教えていただけますか？

— まず、全日制以外の高校だと定時制がありますよね。大体夕方5時から9時までで、4年で卒業です。3時から始めて、3年間で終わる学校も中にはあります。起立性調節

障害などで、午前中に起床するのが難しいお子さんにはおススメです。通信制ですと、自宅で自分で課題をこなさないといけないのですが、何年間も続けるのは大人でも難しいことですよね。その勉強をサポートするのがサポート校です。それは塾やNPO法人、民間団体がやっています。サポート校は通信制高校と連携していて、どちらにも所属していなければいけません。県外の通信制高校を卒業するために、県内のサポート校に通学して勉強を見てもらいながら、課題をこなし、県外通信制の卒業を目指すこともできます。

ーサポート校の果たす役割は大きいんですね？

そうですね。子どもの孤立を予防する居場所として大きな役割を果たしています。毎日通う子もいるし、週に1日ぐらいしか行かない子もいます。そこに行けば、先生や友達がいて話すことができたり、課題提出の手伝いをしてもらったり、定期試験を受けたり、バイトの面接の練習をしてもらったりもします。スクールカウンセラーがいて、カウンセリングしてくれるサポート校もあります。特徴やサービスは多種多様ですね。

ーそうなんですね、そういうサポートをしてもらえることを知らない人の方が多いんじゃないかなって思いますね。定時制や通信制でも学校のクラブ活動はあるんですよね？

そうですね、定時制でももちろんありますし、サポート校にもあります。通信制高校ではオンラインのクラブ活動もあります。

ーあと、学校の行事っていうのもちゃんどある。今、コロナ禍で難しいとは思いますが。充実した、それぞれの青春を過ごすっていうことができないっていうことですね。

そうですね。もちろん、そういうことが嫌だという子もいますよね。「参加しない」という選択をすることもできます。通信制を理解する上で「スクーリング」が大事ですね。通信制では、必ず本校に通って対面授業に参加しなければ、卒業できないんですね。県内の通信制ですと、週に1回とか行く日が決まっています、そこに通学することでスクーリングになります。県外の通信制ですと、特別に認定された県内サポート校に通っていれば、そこに通学することでスクーリングとして認められるところもありますが、大抵はサポート校と別の場所に年に1回か2回、1週間程度行く必要があります。その別の場所が県内の施設のこともありますし、県外ですとホテルを手配して泊まりながら通つか、通信制本校が用意した合宿施設を利用することもあります。それがすごくハードルが高いですよね。

ーそうですね。

知らない人と泊りがけで過ごすのが非常に負担な人にとっては、卒業することが難しくなっていてしまいます。ですので、どうしてもいけない場合は、オンライン授業や他の課題を提出するなどの代替手段があることが重要です。ですが、1週間のうち、3日だけ頑張っただけで帰ってきてしまった場合に、代替手段がなく、全部ゼロになっても1回別の機会に1週間行かないといけない学校もあります。それで心が折れて留年してしまい、転校するはめになる子もいて、学校選びに失敗する人は結構います。

―実際、本当にやめて入り直すんですか？

そういう子が七割ぐらいはいるって言われています。

―それは、選ぶ時に情報を手に入れる方法が少ないってことですか？

少ないですよ。ネットの情報だけではわからないと思いますね。

―ホームページなんかで情報は載っているんですが、細かい点をチェックする余裕がなかったり、全部理解できなかったりするんですよね。全日制とは全然違いますからね。親も経験がなければわかりませんよね。

もちろん、サポート校や通信制高校は「何でも聞いてください」と言っています。でも、何を聞いていいかわからないですよ。例えば、週1日コースを選ぶとします。私たちは「週1日だったら行ける」と思うわけです。週のいつ行ってもいいんだと思うじゃないですか。それで特にその点について質問しないですよ。でも、入学後に学校から「あなたの登校日は月曜日です」と言われることがあります。他の曜日に来てても登校を認めないわけです。すると登校日の前日からレッスンやで体調崩して行けなくなっちゃいます。週1なら登校できる、卒業できるご期待したのに、結局行けずに留年になる。それで、転校することになってしまう。ですから、何を学校に質問したらいいのか、何を聞くと失敗しないで済むのかわかることはすごく大事なんですよね。

―確かに、なかなか調べるには時間がかかったりしますから、何かそういうものがまとまっているものなんかあればいいなっていうことで、先生がお作りになったんですよね？

そうですね。ハイスクールプロジェクトという冊子で、去年の4月から半年ぐらいかけて作りました。「進学先のアルゴリズム」とか、「失敗しないために聞くべき質問」とか、読んでいただきたいですね。通信制やサポート校に子どもが行った保護者さんの失敗体験を基に作成しました。役に立つと思います。

ー自分の子どもでも把握していない特性があったりすると思うので、1つの冊子にまとまっている子どもにも質問しながら選択できるし、子どもも自分で読んで理解できますよね。

ーそうですね。10ページに書かれている、「進学先選びのアルゴリズム」なんですが、「高校に行きたい」の下に「通学する」「通学しない」に矢印があつて、「通学する」の下に「週5日の通学」ができる」と「難しい」に矢印が向いています。よく「あなたにはこういう仕事があつてます」というのを選ぶのがありますが、それに似ていますね。1つずつ選ぶと答えが出てくる。

ーイエス、ノーですね。

最後まで進むと、例えば「定時制」とか、「公立通信制」とか、「県外私立通信制の県内サポート校」とか、自分に合った進学先が見つかるんですね。これは、一見単純なアルゴリズムなんです。4か月もかかっちゃいました。これは第1バージョンとかですね。学校選びに「週5日通学できるか」「ひとり勉強できるか」といったことを選択項目にしましたが、人によつては「発達障害への理解」とか、「授業料の額」とかを希望しますよね。

ー選択項目は、人それぞれで異なりそうですね。

ー全日制以外の選択肢があるのは知ってるけど、具体的にはわからないから、これだけの情報をまとめて示してもらえると、全体像がわかっていますよね。定時制、通信制、サポート校の違いや、各校の特徴なんか細かく書いてあるので、この冊子を見ながら自分に合うものを見つけてくださいね。この冊子について、ご質問が入れることができますか？

ーこれは香川県の全中学校、県立図書館、中讃保健所に置いてあります。香川大学医学部にもあるので連絡いただければお送りすることができます。高校には4月の下旬に配布する予定です。

ー今つて、国のこのつた子どもたちのサポートは、年齢で区切るのが特徴としてあるなっています。先生のフリースペースは三木町の事業としてやっていますよね？

ーそうですね。三木町の事業としてやっていて、小学生から中学生を対象にしていますね。私は子どもだけでなく、親のためのフリースペースとしても位置付けているので、いつでも親御さんからの相談を受け付けていますし、あすなる文庫という図書も用意していて、子育て関連の本を自由に貸し出してもいます。親子のフリースペースですね。子どもは支援員さんに任せて、私は親御さんたちとお茶飲みながらおしゃべりしています。将来的には、成人でひきこもら

れている方々や高齢者など、幅広く居場所を必要としている人みなさんに開放できたらいいですね。

「フリースペースは学校に行かない代わりに行く場所だと思っんですが、学び場所とか居場所って他にもあるものですか？」

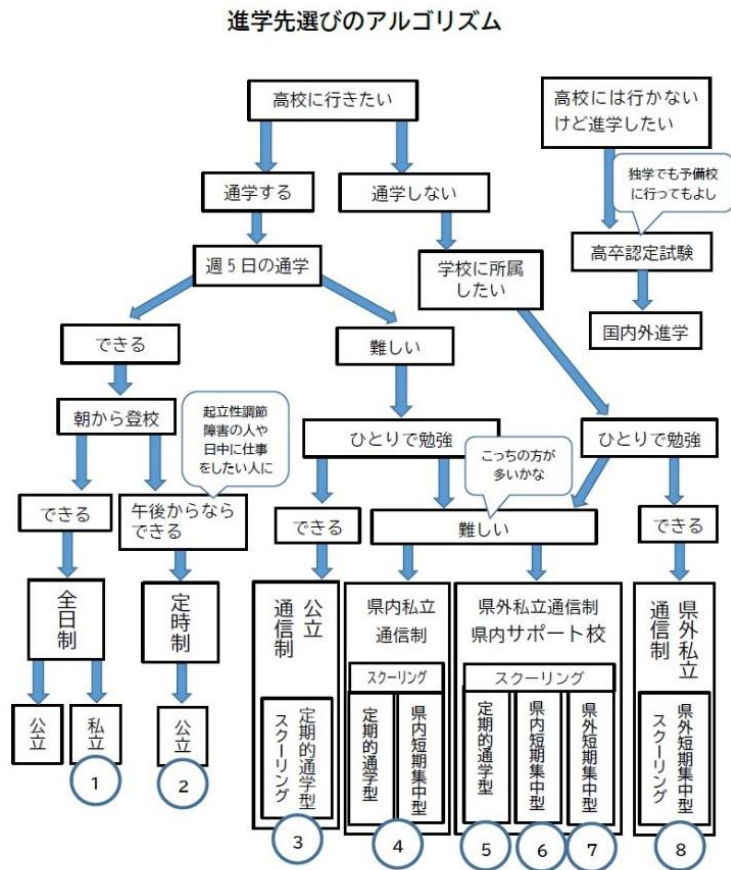
そうですね、教育委員会が管轄の「適応教室とか」教育支援センター」が、各市町に一つはあります。高松市と坂出市は一つありますね。ここは毎日やっていますし、出席日数にカウントします。いわば、学校外の学校ですね。ですから、無料です。この他に、フリースクールがあります。ここも毎日やっていますが、NPO法人や宗教団体等の民間が主催していて、有料になります。出席日数は通常カウントされませんが、この他に私どもがやっているフリースペースがあります。週に2〜3回、短時間で、無料です。こちらも基本的には出席日数にカウントされませんが、お勉強が目的ではありません。子どもの居場所として機能しています。三木町のフリースペースは、珍しく出席日数にカウントされるので、それを目的に参加するお子さんもいます。

「コロナ禍で利用が増えているのがオンラインスクールです。具体的にはクラスジャパン(小学校と中学校)やN中学校があります。学校と言っても、文科省から認可されていませんので、基本的には地元の学校に所属し、その学校の校長先生が認めれば、オンラインスクールの出席が、所属学校の出席になります。有料ですし、自宅にネット環境が必要ですので、参加が難しい」家庭もあるかもしれませんが、ですが、これも一つの学び場として確立しつつあると思います。担任もいますし、オンラインでのクラブ活動もあります。学校の科目以外の多様な学びも提供しているようにです。

「いろいろあるんですね。」

「学校に行けない子の中には朝起きるのが苦手だったり、本人が頑張ってもできないということもあるでしょうし、傍から見るのと「も」とがんばれよ」と言ってしまうたくなるのでしょね。昔は特に多かったと思いますが、そのあたり特に周囲、親御さんが寄り添ってあげられたらいいですね。このように学ぶ場は多くあるわけですし、進路にしても大人が考える以上にたくさんあるわけですよ。」

そうですね、起立性調節障害やうつ病など、思春期にはそういう病気になる子が多いですね。朝、起きられず、寝てばかりいると精神的に弱いとか、さぼっているみたいなことは言われがちでした。ですが、それはもう病気なので、それだったら調子が上向く午後からの学校に行けばいいし、自分のペースで学べるサポート校がいいかもしれません。もはや高校入は行かず、高卒認定試験を受けて、大学進学してもいいかもしれません。子どもにとって何がいい



学校にはそれぞれいろいろな特徴があります。
あなたに合った学校が必ずあるはず。
気になる学校は、必ず自分の足で訪問し、
自分の目で確かめ、自分の耳で話を聞こう！

学校紹介の左上の
番号は、上記の分
類に従っています



ハイスクールプロジェ
クトのQRコード

ありがとうございました。

「ちょっと進路に悩んでらっしゃる方の助けに、今日のコーナーがなってくれたらいいなって先生の話を聞いておりました。鈴木先生、今日はありがとうございました。」

か、子どもにとって何がベストなのか、子どもファーストで考えていくっていうことが何よりも大事だと思います。特に進路に関してはそうですね。